

**土倉・堀口・村瀬・Halley 法 (拡張 Halley 法) とその収束 I (等式の場合)**  
**Tsuchikura・Horiguchi・Murase・Halley's Method (Expansion of the Halley's Method)**  
**and the Convergences I (in the case of equations)**

堀口 俊二\*  
 Shunji Horiguchi

Abstract : 1673 年村瀬義益 (佐渡→江戸→下総 (現在の千葉県)) は『算法勿憚改』を著した. この書で村瀬は, 3 次方程式から 2 種類の 2 乗の漸化式  $x_n^2$  と 3 次方程式の変形を導いた. この変形式の文章は 2009 年 5 月に藤井康生が解説に成功した[3]. 村瀬は変形式でホーナー法も研究している. 鈴木武雄[6]は「村瀬は和算史上だけでなく, 世界数学史上でも稀有な存在である」と評価している. 日本にはこのような独創性のある和算家がいるのである. 変形式の解説により研究が進展した. 2009 年に 3 つの式より, 我々は村瀬の 2 乗の漸化式が, ニュートン・ラフソン法(1690)の拡張に繋がることを発見し,  $q$  乗の土倉・堀口法を与えた[2]. さらに本稿では §2 において Halley 法の拡張の  $q$  乗の拡張 Halley 法を与える. §3 は拡張 Halley 法の収束を考察する. 我々は §1 の関数の定義から出発する.

**1. 関数  $y=f(x)$  の  $x=t^{1/q}$  による関数  $y=g(t)$  の定義**

**定義 1.1** 実変数  $x$  の関数  $y=f(x)$  を,  $x=t^{1/q}$  ( $q \neq 0$ ) は実数) により変数変換した関数を  $y=g(t)$  とする. すなわち

$$g(t) := f(t^{1/q}) = f(x)$$

この関数は  $g(x^q)=f(x)$  となるから,  $y=f(x)$  を高さは変えないで  $x$  軸方向に  $x^q=t$  だけ伸縮したグラフとなる.

**定理 1.2** 曲線  $y=g(t)$  は

$$g''(t) = \frac{x f''(x) + (1-q) f'(x)}{q^2 x^{2q-1}} > 0 (< 0)$$

となる区間なら, グラフは下に凸(上に凸)となる.

**定理 1.3**  $y=f(x)$  の点  $x$  における曲率

$$\mu(x) = \frac{f''(x)}{(1 + f'(x)^2)^{3/2}}$$

は,  $y=g(t)$  の曲率

$$\mu_q(x) = \frac{g''(t)}{(1 + g'(t)^2)^{3/2}} = \frac{x f''(x) + (1-q) f'(x)}{q^2 x^{2q-1} \left( 1 + \left( \frac{f'(x)}{q x^{q-1}} \right)^2 \right)^{3/2}}$$

に移る. 特に  $\mu_1(x) = \mu(x)$  となる.

**2. Halley 法と土倉・堀口・村瀬・Halley 法 (THMH 法)**

**定義 2.1** 実変数  $x$  の方程式  $f(x)=0$  の解(根)  $\alpha$  を近似する次の漸化式を Halley's method という.

$$x_{n+1} = x_n - \frac{f(x_n)}{f'(x_n) - \frac{1}{2} \frac{f(x_n) f''(x_n)}{f'(x_n)}}$$

Halley 法を拡張する. 定義 1.1 の  $y=g(t)$  に Halley 法を行い, それを  $f(x_n)$  で表すと次の  $q$  乗の漸化式を得る.

**定理 2.2**

$$x_{n+1}^q = x_n^q - q x_n^{q-1} \frac{f(x_n)}{f'(x_n) - \frac{1}{2} \frac{f(x_n) \left( \frac{1}{q x_n^{q-1}} f''(x_n) + (1-q) \frac{1}{x_n} f'(x_n) \right)}{f'(x_n)}}$$

**定義 2.3** 定理 2.2 の漸化式を土倉・堀口・村瀬・Halley 法 (THMH 法) あるいは拡張 Halley 法という. 特に  $q=1$  のとき Halley 法になる. (土倉は東北大学名誉教授土倉保)

THMH 法の計算は次式で行う.

$$x_{n+1} = \left[ x_n^q - q x_n^{q-1} \frac{f(x_n)}{f'(x_n) - \frac{1}{2} \frac{f(x_n) \left( \frac{1}{q x_n^{q-1}} f''(x_n) + (1-q) \frac{1}{x_n} f'(x_n) \right)}{f'(x_n)} \right]^{\frac{1}{q}}$$

**3. 土倉・堀口・村瀬・Halley 法 (THMH 法) の収束**

$(x^q - \alpha^q)/(x^r - \alpha^r)$  にロピタルの定理を適用して次の数列の収束の定理を得る.

**定理 3.1** 数列  $\{x_n\}$  において  $\lim_{n \rightarrow \infty} x_n = \alpha$  とする.  $q, r$  を 0 でない実数定数とする. このとき  $\alpha$  に十分近い  $x_n$  に対して次の近似式が成立つ.

$$x_n^q - \alpha^q \doteq \frac{q}{r} \alpha^{q-r} (x_n^r - \alpha^r)$$

\* 新潟産業大学

**定理 3.2** Halley 法は,  $\alpha$  が  $f(x)=0$  の単根で,  $x_n$  が  $\alpha$  の近傍のとき, 次の3次収束の近似をする.

$$x_{n+1} - \alpha \doteq \frac{\frac{1}{4}f''(\alpha)^2 - \frac{1}{6}f'(\alpha)f'''(\alpha)}{f'(\alpha)^2}(x_n - \alpha)^3$$

$\alpha$  が  $m(\geq 2)$  重根のとき, 次の1次収束の近似をする.

$$x_{n+1} - \alpha \doteq \left(1 - \frac{2}{m+1}\right)(x_n - \alpha)$$

定理 3.1, 3.2より,  $q(\neq 0)$  が実数定数のとき, 次の定理を証明できる. これより数値計算の考察範囲が広がる.

**定理 3.3** THMH 法は,  $\alpha$  が  $f(x)=0$  の単根で,  $x_n$  が  $\alpha$  の近傍のとき, 実数定数  $q(\neq 0)$  に対して次の3次収束の近似をする.

$$x_{n+1} - \alpha \doteq \left( \frac{\frac{1}{4}f''(\alpha)^2 - \frac{1}{6}f'(\alpha)(f'''(\alpha) + (2q-1)(q-1)f'(\alpha))}{f'(\alpha)^2} + \frac{(q-1)^2 f'(\alpha)^2 - (q-1)f'(\alpha)f''(\alpha)}{\alpha} \right) (x_n - \alpha)^3$$

$\alpha$  が  $m(\geq 2)$  重根で,  $x_n$  が  $\alpha$  の近傍のとき

$$x_{n+1} - \alpha \doteq \left(1 - \frac{2}{m+1}\right)(x_n - \alpha)$$

となり, 1次収束の近似をする.

**命題 3.4** THMH 法において,  $\alpha$  が  $f(x)=0$  の単根で,  $x_n$  が  $\alpha$  の近傍のとき, 実数  $q$  が十分に1に近ければ, THMH 法とHalley 法の収束の速さは等しい.

$$\begin{aligned} & \text{THMH 法の3次収束の}(x_n - \alpha)^3 \text{の係数} \\ & = \text{Halley 法の3次収束の}(x_n - \alpha)^3 \text{の係数} \end{aligned}$$

に3通りの式変形を行い, 以下の定理 3.5~3.7を得る.

**定理 3.5**  $\alpha$  を  $f(x)=0$  の単根とする.  $x_n$  が  $\alpha$  の近傍のとき,

$$q = \frac{1}{(4\alpha^2 - 3)} \left( (2\alpha^2 - 3) - \frac{12\alpha f''(\alpha)}{f'(\alpha)} \right)$$

より得られる実数  $q$  に対して,  $q$  乗のTHMH法とHalley法の収束の速さは等しい.

**定理 3.6**  $\alpha$  を  $f(x)=0$  の単根とする. 曲線  $y=g(t)$  の凹凸を判別する2次導関数  $g''(t)$  が, ある実数  $q$  に対して

$$\begin{aligned} & \frac{(1-q)f'(\alpha) + \alpha f''(\alpha)}{q^2 \alpha^{2q-1}} \\ & = \frac{1}{(q\alpha^{q-1})^2} \left( -\left(\frac{3}{4\alpha} + \frac{\alpha}{3}\right)q + \frac{3}{4\alpha} + \frac{\alpha}{6} \right) f'(\alpha) \end{aligned}$$

を満たすとする. このとき  $q$  乗のTHMH法とHalley法の収束の速さは等しい.

**定理 3.7**  $\alpha$  を  $f(x)=0$  の単根とする. 曲線  $y=g(t)$  の曲率  $\mu_q(x)$  が, ある実数  $q$  に対して

$$\begin{aligned} & \mu_q(\alpha) \\ & = \frac{1}{\left(1 + \left(\frac{f'(\alpha)}{q\alpha^{q-1}}\right)^2\right)^{3/2} (q\alpha^{q-1})^2} \left( -\left(\frac{3}{4\alpha} + \frac{\alpha}{3}\right)q + \frac{3}{4\alpha} + \frac{\alpha}{6} \right) f'(\alpha) \end{aligned}$$

を満たすとする. このとき  $q$  乗のTHMH法とHalley法の収束は等しい.

方程式  $f(x)=0$  を  $h(x)=0$  に式変形する. この  $h(x)$  の  $r$  乗のTHMH法は次式である.

$$\begin{aligned} x_{n+1}^r &= x_n^r - \\ & r x_n^{r-1} \frac{h(x_n)}{h'(x_n) - \frac{1}{2} \frac{h(x_n) \left( \frac{1}{r x_n^{r-1}} h''(x_n) + (1-r) \frac{1}{x_n} h'(x_n) \right)}{h'(x_n)}} \end{aligned}$$

**命題 3.8**  $f(\alpha)=0, h(\alpha)=0$  とし,  $\alpha$  は単根とする.

$f(x)$  の  $q$  乗のTHMH法の3次収束の  $(x_n - \alpha)^3$  の係数 =  $h(x)$  の  $r$  乗のTHMH法の3次収束の  $(x_n - \alpha)^3$  の係数のとき,  $f(x)$  の  $q$  乗のTHMH法と  $h(x)$  の  $r$  乗のTHMH法の収束の速さは等しい.

### 参考文献

- [1] 村瀬義益著・西田知己校注:『算法勿憚改』(1673), 研成社, 1993
- [2] 堀口俊二: 村瀬義益とニュートンの漸化式より得られる一般漸化式, 数理解析研究所講究録 1739, 2011, pp. 234-244., 京都大学数理解析研究所
- [3] 堀口俊二・金子勉・藤井康生: 村瀬義益の濠縁の3次方程式の3つの解法とホーナー法の関連, 和算研究所紀要 2013.3 No. 13, pp. 3-8., 和算研究所
- [4] 土倉保: 和算家的発想による  $p$  乗根の求め方, 和算研究所紀要 2012.3 No. 12, pp. 1-7., 和算研究所
- [5] [http://en.wikipedia.org/wiki/Halley's\\_method](http://en.wikipedia.org/wiki/Halley's_method)
- [6] 鈴木武雄:『和算の成立』, 恒星社厚生閣, 2007
- [7] 永坂秀子:『計算機と数値解析』, 朝倉書店, 1980
- [8] 戸川隼人:『数値計算法』, コロナ社, 1981